

保育環境における壁面装飾の意義 1

—幼稚園教員・保育士への質問紙調査から—

幡野 由理*・山根 直人*・小田倉 泉**

キーワード：壁面、園、環境、保育士、幼稚園教員

I 研究の目的

幼稚園・保育所の室内に一步足を踏み入れれば、さまざまな情報を提供するための掲示板や、子どもや保育者の作品で装飾された壁面を目にする。「壁面構成」や「壁面装飾」は、保育室内の壁面を保育者や子どもの作品等で飾ることを意味する、保育界の用語として用いられている。幼児教育は環境を通して行うものであるため、幼稚園、保育園における「壁面装飾」は、保育における生活空間、生活環境を構成する一部としての役割を果たしている。今日、保育室内の装飾は、園内の環境づくりにおいて積極的に取り入れられており、「幼稚園らしさ」「保育園らしさ」の、一種の象徴ともなっている。

鈴木¹⁾によれば、日本の幼稚園における「壁面構成」は、明治11年の関信三による『幼稚園創立法』に記された「塗板」(黒板)がその祖であり、「黒板画」は有用な保育技術であったという。さらに明治40年代には、幼稚園の室内装飾に欧米のインテリア・デコレーションの考え方が取り入れられ、室内環境の構成において装飾に重きが置かれていったことを鈴木は報告している。しかし、室内装飾に偏るあまり、それは

もっぱら保育者の業務となり、子ども不在の環境構成となっていった。大正期の自由画教育運動、児童中心主義によって、それまで保育者が室内装飾の一部として描いていた黒版画や掛図ではなく、実物大に近い大きさで描かれた人物や動物が子どもたちの実生活同様の活動を行う様子を壁面に描画することなど、次第に子どもの興味・関心を考慮した壁面構成がなされ始めた。その後、幼稚園教育要領、保育所保育指針の改定により、保育の理念や方法に段階的な変化はあるものの、幼稚園、保育園における壁面構成は、室内装飾の重要な位置を占めるものとして今日に到っている。

しかしながら、鈴木が保育者の「慣行」と述べるように、「壁面構成」は必ずしもその本来の意味を追求されているとは言い難く、保育者にとって非常な労力と時間を要する「慣行」となっている現実がある。日々の保育の多忙さによる時間的制約、素材にかかわる経済的事情の中で壁面構成を行うことは容易ではなく、また、デザインの技術や構成力など、保育者が壁面構成を行う上での条件を不足無く備えることは難しい。それでも、先に述べたように保育現場における一種の象徴となっている壁面装飾は、不可欠の「慣行」として保育業務の中に位置づけられていることが多いのが実情であり、四季折々の行事や子どもの生活をテーマに展開されてい

* 理化学研究所

** 埼玉大学教育学部乳幼児教育講座

る。

壁面装飾のテーマについての研究は、木内²⁾が、保育者養成の立場から、保育環境の分野における壁面構成の小型模型制作を通じた授業で、学生が選ぶテーマを、月ごとに分類した。また、半³⁾が行った、幼児教育における造形の鑑賞についての幼稚園教諭への意識調査からは、友達の作品の相互鑑賞や「みる」活動の必要性が表れているものの、子どもたちにとってもっとも身近な造形物であるはずの壁面装飾についての言及はない。

そもそも、壁面装飾の制作者となる保育者は、何を意識し、何をねらいとして制作しているのだろうか。壁面装飾の根本的な意義について論じられることは非常にまれである。豊泉⁴⁾の調査からは、壁面構成に対する保育者の意識を探ることができる。それによれば、多くの保育者が壁面構成には保育室を楽しく演出する効果や、子どもと保育者の対話を促進する効果があると考えているにもかかわらず、保育雑誌やマニュアル書を参考に低予算・短時間で制作する必要があると考えていることがわかる。豊泉はデザイン学の立場から「壁面構成」を「保育空間におけるインテリアデザイン」「デザインの活動」と表現するように、保育室は子どもが園生活の多くの時間を過ごす生活の場であり、室内の壁面は生活空間の質を左右するものと言い得る。したがって壁面構成もそれぞれの幼稚園・保育所における環境づくりの一つであり、子どもたちの表現の場でもあると述べている。それゆえ、子どもが何を日常的に目にするのか、どのような視覚的情報に取り囲まれて生活を送っているのかを振り返り、その質的課題を再検討する必要がある。

本研究は、保育者が壁面構成に対してどのような意識をもち、実際にどのような取り組みを行っているのかを明らかにしながらその質的課題を検討し、保育者養成段階において求められる事柄を探っていくことを目指している。保育者が、保育室そのものにどのような役割を求め

て装飾を行っているのか、壁面の内容において、色・形といった造形的要素や、掲示板としての機能的要素を保育者がどの程度意識して制作にあっているのかという点に着目し、幼稚園教員・保育士を対象とした調査の結果から保育環境における壁面装飾の意義について考察する。

II 調査の概要

本研究では、幼稚園教員・保育士に以下のとおり質問紙調査を行った。

1. 調査対象

東京都及び埼玉県内の私立・公立幼稚園に勤務する幼稚園教員、埼玉県内の私立・公立保育所に勤務する保育士に対して調査を依頼し、59名分の回答を得た。内訳は、幼稚園教員17名（私立10名、公立7名）、保育士42名（私立30名、公立12名）となった。性別の内訳は、男性1名、女性58名であった。年代の内訳は、20歳代24名（前半10名、後半14名）、30歳代16名（前半12名、後半4名）、40歳代15名（前半7名、後半8名）、50歳代前半3名、60歳代前半1名であった。

2. 調査時期

2009年2月～3月の間に質問紙を配布し、3月中に全員分の質問紙を回収できた。

3. 調査方法

以下のとおり、質問紙による調査を行った。

- ・フェイスシート：性別、年齢、勤務年数、現在担当する保育室の日当たりに関して尋ねた。
- ・質問Ⅰ：保育室という空間そのものについてのとらえ方について尋ねた。
 - (1) 保育室が生活空間であるか、遊び空間であるか、教育空間であるか、という3つの項目について「全くそう思わない」「あま

りそう思わない」「どちらともいえない」「ややそう思う」「とてもそう思う」の5段階で回答してもらった。次に(2)保育室に必要な雰囲気として、生活・遊び・教育に関する7項目について「必要ない」「あまり必要ない」「どちらともいえない」「やや必要である」「必要である」の5段階で回答してもらった。

- ・質問Ⅱ：保育室の壁面装飾の内容について尋ねた。(1)壁面装飾を制作する際に重視する観点について、教育的な観点・雰囲気作りの観点・制作者側の観点から18項目、(2)色・形・機能に関する具体的な要素について18項目を、それぞれ「重視しない」「あまり重視しない」「どちらともいえない」「やや重視する」「重視する」の5段階で回答してもらった。
- ・質問Ⅲ：壁面装飾に取り入れる絵やイラストについて尋ねた。(1)選択の基準となる視点に関する10項目のうち、重要と思われる順に3位まで順位づけしてもらった。また(2)絵やイラストを選ぶ際に参考とする媒体に関する5項目(自由記述含む)について、「参考にする」「ほとんど参考にしない」「どちらともいえない」「ときどき参考にする」「参考にしない」の5段階で回答してもらった。
- ・質問Ⅳ：壁面装飾についての日頃の考えや気付いた点などについて自由記述で回答してもらった。

Ⅲ 結果と考察

1. 保育室について

図1-1に「保育室はどのような空間であるか」の結果を、回答ごとの割合として示した。

1) 保育室はどのような空間であるか

「そう思う」という肯定的な回答が多かったのは「生活空間である」(76.3%)、「遊び空間である」(57.6%)の2項目であり、「ややそう思う」の回答も含めると各々96.6%、98.3%となり、図1-1に示した通り、全体の95%以上となった。それに対して「教育空間である」という項目に対しては「そう思う」「ややそう思う」が全体の69.5%を占めるものの、そのうちの「そう思う」という強い傾向を示す回答は全体の30%に過ぎなかった。加えて、「教育空間である」の項目においては、前記した2項目にはほとんどみられない「どちらともいえない」という回答が16.9%、「あまりそう思わない」という回答が11.9%みられた。これには、幼稚園・保育所の教育に対する考え方の相違が出ていると考えられる。図1-2および図1-3に保育士・幼稚園教員別の割合を示した。施設の構成別にみても、図1-2に示したように、保育士の回答結果は全体の結果よりも「教育空間である」を「そう思う」とした割合が少なかった(14.3%)。一方、図1-3に示した幼稚園教員の回答結果から、保育室を「生活空間である」(「そう思う」64.7%)「遊び空間である」(「そう思う」64.7%)と同等に、「教育空間である」についても「そう思う」(67.4%)が高い傾向が認められた。

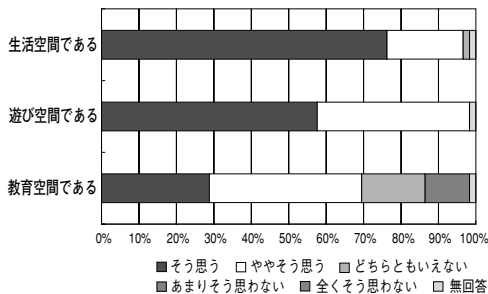


図 1-1 保育室はどのような空間であるか

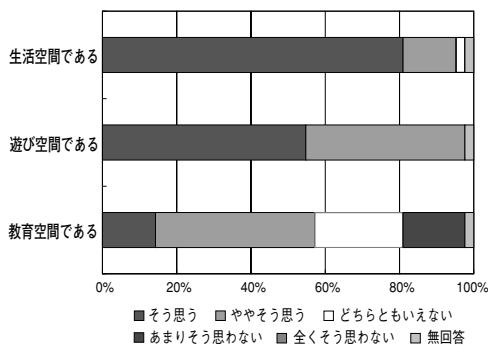


図 1-2 保育室はどのような空間であるか (保育士の回答)

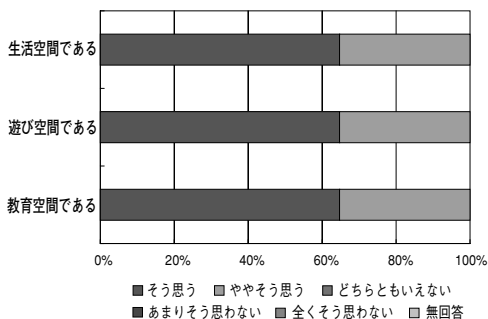


図 1-3 保育室はどのような空間であるか (幼稚園教員の回答)

このことから、保育室というものが教育的役割を持つ空間であるという認識は、保育所と比較して幼稚園の方がやや強くあるといえる。

2) 保育室に必要と思われる雰囲気

図 2 に「保育室に必要な雰囲気」の回答結果を示した。

図 2 より「必要である」と答えた割合が多かった項目のうち、「子どもが落ち着いて生活できる雰囲気」(84.7%)と、「子どもが楽しく遊べる雰囲気」(83.1%)が、上位を占めていることがわかる。「子どもが落ち着いて生活できる雰囲気」は生活面にかかわる項目、「子どもが楽しく遊べる雰囲気」は遊びの面にかかわる項目であり、それぞれ質問 I と同様の結果となった。また「子どもが活動に集中できる雰囲気」という項目についても「必要である」の回答も多く(69.5%)、「あまり必要ではない」「必要ない」といった否定的回答は皆無であった。これらの結果から、保護者たちは保育室そのものもつ雰囲気が、複数の園児たちの限られた空間での活動に大きな影響を与えていると考えているようすがわかる。

「保護者などの大人に喜ばれる雰囲気」という項目については、肯定的な回答「必要である」「やや必要である」が28.8%、否定的な回答「あまり必要ではない」「必要ではない」が25.4%、「どちらともいえない」が45.8%と、回答が分かれた。この結果には、幼稚園・保育所という施設においては、保護者をはじめとする大人のかかわりが多くあることが関係していると考えられる。日々の送り迎えやイベント等で、保護者は園内に足を踏み入れる。その際、もっとも目にするのは子どもがいる保育室である。自分の子どもたちが家庭以外で、どのような雰囲気の部屋で日々の大半を過ごしているのかを知ることは、保護者たちにとって園を知る上で重要な指標となるであろう。

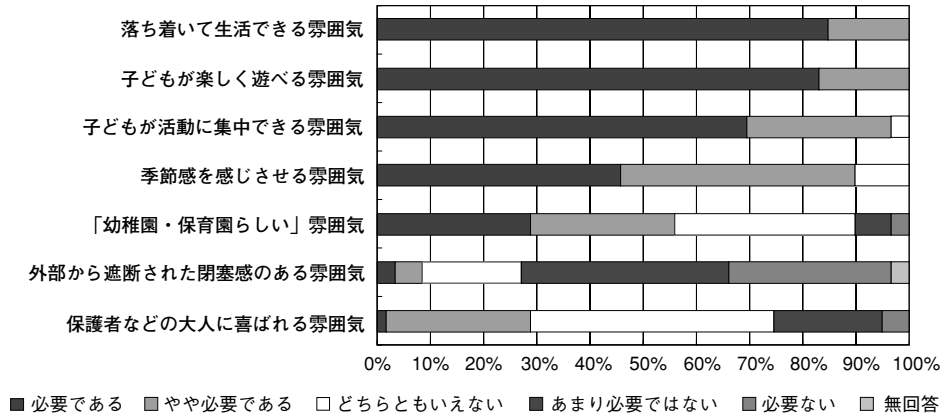


図2 保育室に必要な雰囲気

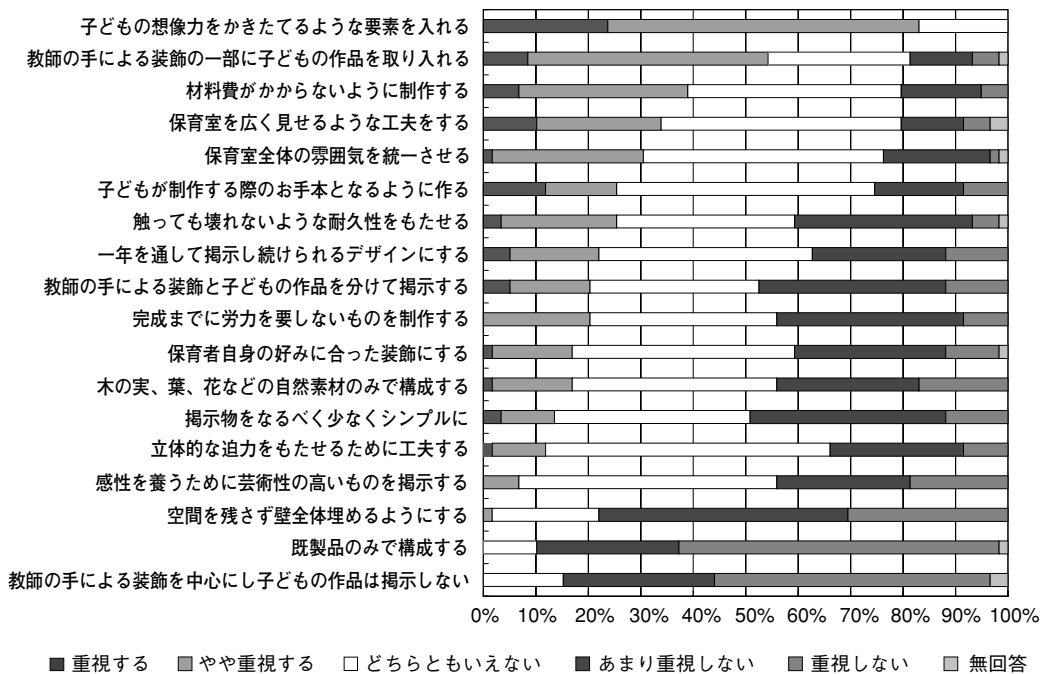


図3 壁面制作の際に重視する観点

これらから、幼稚園・保育所の保育者は、子どもにとっての生活の場・遊びの場としてのより良い空間設定を重視する一方で、保育室の環境に向けられるこうした保護者の目を完全に無視することができない立場にあるのだと考えられる。

2. 保育室の壁面装飾の内容について

1) 制作の際に重視する観点

図3に「壁面制作の際に重視する観点」の結果を示した。

質問した項目と結果を「重視する」と「やや重視する」という肯定的回答の割合が高い順に示した。「子ども

もの想像力をかきたてるような要素を入れる」の項目に対しての肯定的回答が全体の83.1%という高い割合を示した。この項目は、壁面装飾がもたらす子どもへの教育的効果を重視した視点としてとらえることができる。これに加え「教師の手による装飾の一部に、子どもの作品を取り入れる」という項目の優位性もまた、保育者が壁面装飾を子どもたちへの教育的働きかけの一つとしてとらえられる。しかし、同様な教育的観点が含まれる項目においては、肯定的回答が少なかった。（「木の実、葉、花などの自然素材のみで構成する」16.9%、「立体的な迫力を持たせるために工夫する」11.9%、「感性を養うために芸術性の高いものを掲示する」6.0%）このことから、実際に利用する素材や具体的に直接的な表現方法に偏ることなく、子どもの作品も取り入れつつ、子どもたちに働きかける壁面の構成を模索している現状をみてとることができる。

空間の雰囲気作りに関しては、「保育室を広く見せるような工夫をする」「保育室全体の雰囲気を統一させる」といった壁面の外観（見た目）に関する項目が上位を占めている。それに対して「空間を残さず壁全体を埋めるようにする」「既製品のみで構成する」という項目には、否定的回答が多く見られた（前者88.1%、後者78.0%）。この結果に、制作者としての観点にかかわる「材料費がかからないように制作する」の項目の結果（肯定的回答が39.0%と高く、18項目のうちでも3位）を重ねてみると、限られた空間にゆとりある装飾を、コストを抑えて手作りしたい、

という制作者の意向がみてとれた。

2) 色・形・機能という各要素

図4に「色・形・機能などについて重視する観点」の結果を示した。

ここでは、壁面制作にあたって重視する項目を、色に関する項目、形に関する項目、機能に関する項目に分類し分析した。最も顕著に表れたのは「部屋全体を明るく見せるような色を選ぶ」（肯定的回答71.2%）、「子どもが好む色を意識してとりいれる」（肯定的回答61.0%）、「たくさん色から吟味して色を選ぶ」（肯定的回答52.5%）、「子どもの発達段階に応じた色彩感覚を意識する」（肯定的回答44.1%）といった、使用する色への強い意識であった。同じく色に関する「色画用紙の色をそのまま使う」「できるだけたくさん色数を使う」という項目への肯定的回答が少ないこと（前者22.0%、後者16.9%）を併せて考察すると、色そのものの持つ効果を意識し、期待して壁面構成へ利用しようという保育者の姿勢がうかがえた。

一方で「子どもに伝えたい知識を掲示する」の項目に肯定的回答が多く見られた（52.5%）のは、壁面が掲示板機能と教育的機能を併せ持つスペースであることを示している。教育的機能に関してみれば、ここには数字や文字といった直接的な内容だけでなく、園が携わる宗教的行事や日本伝統の年中行事等にかかわる文化的知識も含まれ、“季節感を感じさせる壁面作り”への執着の根拠になっていると考えられる。

ここでは、色や機能にかかわる項目を重視する傾向が顕著に表れたのに対し、形に関する項目への明らか

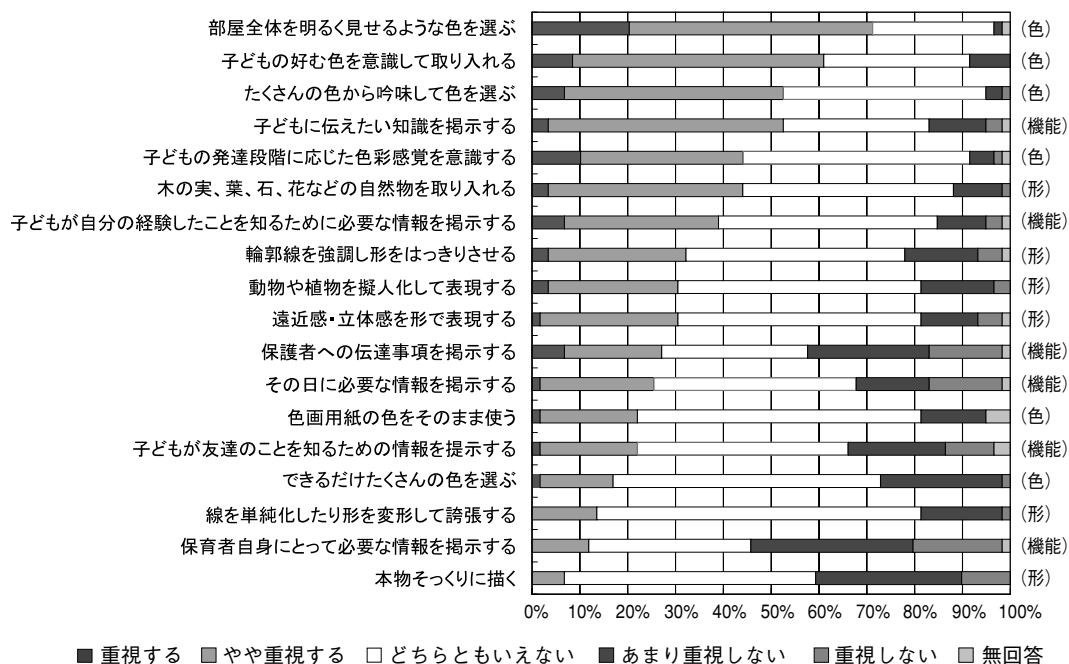


図4 色・形・機能などについて重視する観点

な肯定回答は見られなかった。「輪郭線を強調し、形をはっきりさせる」(肯定的回答32.2%)、「動物や植物を擬人化して表現する」(肯定的回答30.5%)、「遠近感や立体感を形で表現する」(肯定的回答30.5%)といった、形に関する項目には、それぞれ30%前後の肯定的回答があったものの、「線を単純化したり形を変形して誇張する」(肯定的回答13.6%)、「本物そっくりに描く」(肯定的回答6.8%)といった具体的な造形の表現方法に関する項目を重視する傾向は少なかった。これらの結果から、保育者は壁面装飾を行う上で、色・形・機能といった要素をそれぞれ均等に重視してはいるが、それらの要素を効果的に子どもたちへ伝えるために必要な、具体的な選択方法や表

現方法についての意識はやや低いと考えられる。

3. 保育室の壁面装飾に取り入れる絵やイラスト

1) 絵やイラストの選択基準

図5に、壁面のテーマや内容が決まった後、それに合わせる絵やイラストを選ぶ際の基準として順位づけされた項目を、1位3ポイント、2位2ポイント、3位1ポイントとして、合計ポイントの高い順から並べて示した。保育施設の壁面装飾に画一的なイラスト的な表現が多く見られる要因として、参考にする保育雑誌の影響があることは容易に想像できるものの、絵やイラストを選ぶ前の基準においては、ただ保育雑誌等の媒体に存在するものだけから選択

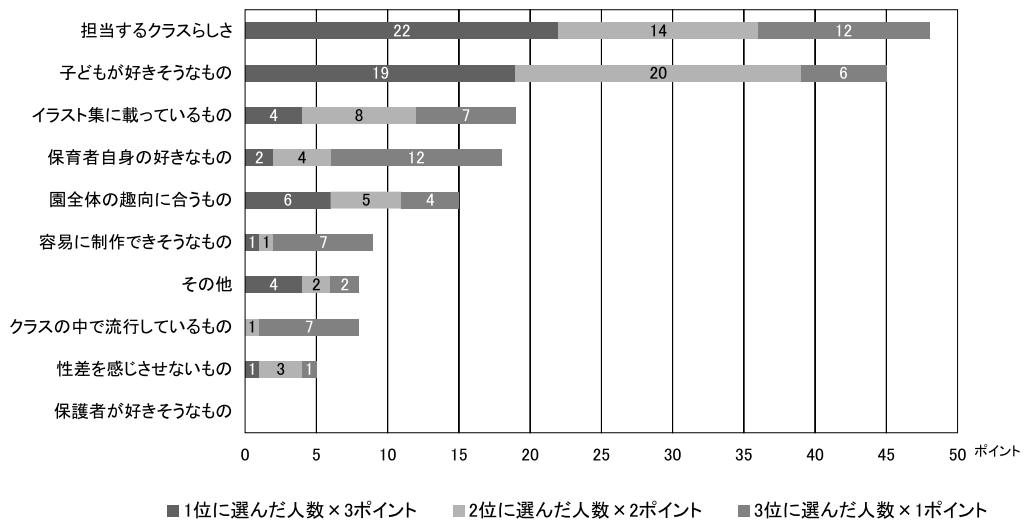


図5 壁面装飾に取り入れる絵やイラストの選択基準

しようとするのではなく、「担当するクラスらしさ」や「子どもが好きそうなもの」に重点を置いているということがわかった。また「保護者が好きそうなもの」の項目を選ぶ者は皆無（0ポイント）であるのに対し「園全体の趣向に合うもの」（15ポイント）や「保育者自身の好きなもの」（18ポイント）が上位にあったことから、保育者は自分らしさやクラスらしさから、保育施設としての園全体の統一感を意識して壁面制作にあたらうとしていることがわかる。

また、「その他」の自由記述においては、「季節感」を加える保育者が複数みられた。前述の質問Ⅰの結果からも、室内に「季節感を感じさせる」雰囲気を必要としていることが伺えるため、壁面を飾る絵やイラストが室内の季節感に大きな影響を与えていることが示唆された。

2) 絵やイラストの参考にする媒体

図6に「壁面に用いる絵やイラストを選ぶ際に参考にする媒体」の結

果を示した。

「保育雑誌やインターネットなどのイラスト集」を「参考にする」（83.1%）という回答が圧倒的であった。「既成のキャラクター（TVなど）」を参考にするに関しては否定的な回答が多かった（「ほとんど参考にしない」23.7%、「参考にしない」32.2%）。「本物そっくりに描かれた図鑑の絵・写真素材」については肯定的な回答（「参考にする」6.8%、「ときどき参考にする」37.3%）と否定的な回答（「ほとんど参考にしない」25.4%、「参考にしない」6.8%）に分かれている。前述したとおり、図4で「本物そっくりに描く」という表現的な項目に対する肯定的回答は少なかった。壁面の内容をより子どもに伝えやすくするために保育者が選ぶ表現方法には、“本物そっくり”や“実物に近い”といった具象性・写実性が含まれていないことがわかった。

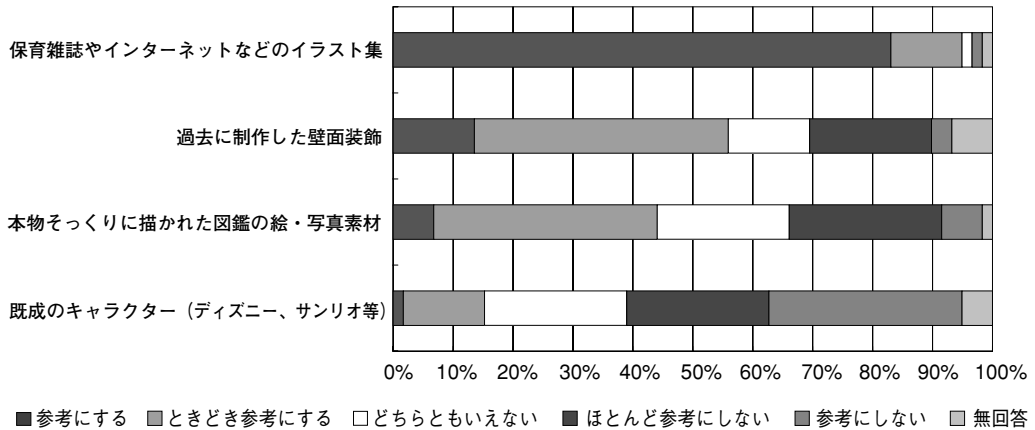


図6 壁面に用いる絵やイラストを選ぶ際に参考にする媒体

IV まとめ

以上を質問調査の結果から、保育者が、保育室を家庭でも学校でもない特別な空間としてとらえている傾向がみとめられた。さらに、生活空間であり遊びの空間でもある保育室を飾る壁面もまた、この特殊な空間作りに大きな影響を与える重要な要素であるという認識もみとることができた。

しかし、この特別な空間・環境づくりのための壁面に、なぜ既存の保育雑誌等のイラストが多く採用されているのであろうか。その理由としては(1)容易に(2)安価で(3)見た目の良いかわいらしい壁面に仕上げることができるという点が考えられる。さらに今回の調査により、必ずしもそれらの理由が壁面装飾のテーマづくりのきっかけに直結したものではない、ということがわかった。例えば、自由記述にて壁面装飾について日ごろの考えを尋ねたところ、「かわいらしさ」「わかりやすさ」など、子どもに受け入れられやすい要素に重きを置く記述がみられ、壁面構成が総合的な環境を作り出す助けとなるものだという認識があることがわかった。しかしながらその認識はあくまでも全体的な、ややぼんやりとしたものであり、保育者は色・形・

機能といった具体的な要素がもたらす効果を知りつつも、それを実際の壁面装飾に組み込むだけの時間的・経済的余裕が十分でないという、現実的な問題が先行しているのではないかと考えられる。保育雑誌のイラストがこれだけ多く採用されている背景には、こうしたイラストの色や形が子どもにとってわかりやすく、尚且つ「かわいらしく」季節感ある空間を作り上げるために必要な要素を含み、効果的な表現方法をとっている、という現場の共通認識が存在していることが読みとることができた。その一方で、壁面装飾を子どもたちと共に行う、または子どもたちの作品を壁面に取り入れるといった方法が、少なからずとられていることから、壁面装飾は保育者の一方的な提示のみではなく、保育者が子どもたちの「つくる」と「みる」という活動に対する教育的効果を期待している傾向が示唆された。

本研究においては、論点を整理するために幼稚園と保育所の比較は最小限に留めたが、本稿Ⅲ-1-1)で触れたように、両施設の教育的視点の相違が壁面装飾へのかかわり方に何らかの影響を与えている可能性は高く、今後更なる知見の積み重ねが望まれる。また、幼稚園教諭・保育士を目指す学生にとっても、壁面構成は授

業の課題・現場での実習等で身近なものになっている。しかしその一方で、画一的なイラストで壁面を装飾・構成する力が単なるスキルとして定着してしまう危険性も含んでいる。今後は、教員養成の立場からも壁面装飾の意義を併せて検討していきたい。

引用文献

- 1) 鈴木法子「壁面構成とは何か 1—明治期の幼稚園における壁面構成の萌芽—」日本保育学会第50回大会研究論文集 日本保育学会 pp.474-475 1997年
鈴木法子「壁面構成とは何か 2—大正期の『室

- 内装飾』—」日本保育学会第51回大会研究論文集 日本保育学会 pp.114-115 1998年
- 2) 木内菜保子「保育の環境構成を目的とした造形制作に関する一考察」『中国学園紀要』3 pp.69-75 2004年
- 3) 半直哉「造形の鑑賞に関する幼稚園教諭の意識」『山陽学園短期大学紀要』37号 pp.75-89 2006年
- 4) 豊泉尚美「幼児教育におけるデザイン活動としての『壁面構成』—幼稚園・保育園の壁面構成製作活動を中心として」『デザイン学研究』Vol.43 No.5 1997年

(2009年3月31日提出)

(2009年4月17日受理)

Wall Displays in Preschool Classrooms 1: A Survey of Nursery School and Kindergarten Educators

Yuri HATANO, Naoto YAMANE and Izumi ODAKURA

Keywords : wall display, kindergarten, preschool, environment, educators

Hekimenkousei, or *hekimensoushoku*, refers to the creation of displays which adorn preschool classroom walls, and may include material created by the children or their teachers. Although such displays have long been a familiar element in the preschool environment, serious research examining their purpose and effectiveness has been rare. In this study, a group of preschool and kindergarten teachers were surveyed according to various aspects of *hekimensoushoku*. Based on their responses, a thorough examination of the qualities and effectiveness of these displays was conducted.

Many subjects noted that as a vital environmental feature, wall displays contribute uniquely to the atmosphere of the preschool classroom, and that the quality of their color, layout, and construction all contribute to their effectiveness. At the same time, a great number of those surveyed admitted that due to time and budgetary limits, they often rely at least partially on ready-made visual material from educational publications and other sources to create attractive displays. However, building the displays together with and incorporating material made by the children into the displays, they felt, provided the children with valuable creative and evaluative experiences.